

情報
工学

任期付き研究員

大学教員

研究室を構えて仕事のバランスをとる

Gentiane Venture (東京農工大学機械システム工学科 准教授)

仕事の内容と面白さ

東京農工大学で新たに導入されたテニユアトラック制度に参加しています。テニユアトラックとは、若手研究者が独立した研究室を構え、運営と指導能力を試されるシステムのことで、大きなチャンスであり、大きなチャレンジです。研究室の学生を指導し、授業を行い、資金獲得のための研究計画を書きます。もちろん研究も行います。それぞれの仕事は密接に関係していて、マルチタスクかつ全面的な仕事です。私の研究分野は情報工学で、ロボットと人間の動作に関する研究を行っています。人間はより複雑な機械的システムであると考え、ロボットと人間の動作は理論的に共通な点が多く、刺激的な研究です。

仕事と生活のバランス

研究室を構えると色々な責任が伴って、フレックスタイムの「残業」をしがちです。マルチタスクな仕事の欠点もあります。なぜならば研究開発活動は脳活動の仕事だからです。仕事と生活のバランスを取ることは困難です。電車の中でも、自宅でも、寝ながらでも研究について考えるのを止めることができません。しかし長期の成功を実現するためには心の健康が重要です。気持ちを落ち着かせるために、週末、家族や友人を大切に、毎晩料理を作り、映画を見ます。毎週日本語を勉強したり、スポーツをしたり、都会や田舎を散歩しています。

私の進路決定のきっかけ

高校生のころに科学の研究者になると決めましたが、分野を決める前にとっても迷いました。最初は海洋学や林学、次は化学、最後は流体力学をしようと考え、流体力学を勉強するためにエコール・セントラル・ド・ナントに入学しました。しかし一年以内に流体力学部の授業内容がっかりし、ロボット工学部がとても魅力的だったので、ロボット工学を選びました。先生方からは、必要な時にとってもよいアドバイスをもらい、修士、博士を取得しました。常にキャリアの進化を行い、どんな場所でも研究をして、周囲の人たちと強い結びつきを作りました。

進路選択についてのメッセージ

仕事の楽しさ、面白さ、長期の成果などを忘れてキャリアを作ることが大切です。私にとって、女性と男性は比較の意味がありません。両方とも能力と意欲を持つことができます。全員、キャリアを進めながら生活のバランスを取っていくことが必要ですが、女性は社会的な期待とプレッシャーをより受けやすい立場にあります。キャリアと生活の選択が必要な時は、自分で長所短所を十分考えた上、上司や周囲の人と相談することが大事だと思います。正直に言うことも大事です。ともかく、たとえ妥協する時でも、真剣に考えて選択することが必要です。段々社会の考え方自体も変わっていくと思います。

海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

高校1年と2年の夏休みにアメリカでホームステイをした時(各1ヶ月間)、フランス語が全く通じなかったので一生懸命英語の練習をしました。最初は大変でしたが、段々日常会話が上達し、大学に行ってから論文を読みながら専門用語を覚えて、世界の研究者と議論できるようになりました。そのお陰で研究のために海外へ行く事に不安がなくなり、ロボティクスの最先端の研究をするために日本にやってきました。日本でも最初は主に英語で話していましたが、やはり日本語も重要だと思って勉強しました。海外に行く事で、様々な相手と議論できるようになり、色々な意見をもらえるようになって、研究と情報交換の場が広がりました。

海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

フランスでは、専門によって女性研究者が多い分野もあります。残念ながら機械の分野は女性が少ないですが、最近は卒業生も増えて来ています。以前勤めた研究所のチームリーダーは女性でしたが、性差別を感じたことは一度もなく、逆に女性が少ないために注目を浴びやすいように思います。またフランスで会社員と研究者を比較すると、フレックスタイムで働く研究者は少なくありません。実験・授業以外は、自宅からでも仕事が可能です。その上、子供を預かるための設備、休日などが多いので、日本とくらべて家族と過ごすための環境が整っていると感じます。

海外留学・勤務を決めたきっかけについて

海外で仕事や生活をする事は大きなチャレンジであり、最初は強い意思と海外への好奇心が重要です。また、海外で勉強や研究をするためのプログラムが沢山あるので、その選択も大切です。私は、博士課程が終わってから海外に行く決めました。短期で海外に行った経験から、次は長期で行ってみたいと考えましたが、長期となるとよりよい留学先の選択が必要で、研究の専門性と、文化的にも興味がある国として日本を選びました。ちょうどJSPSの募集時期だったので、JSPSの「特別研究員」に応募し、2年間の海外留学に行く事決めました。

滞在先の思い出・生活者としての体験

フランスの西海岸でナントという町に住んだことがあります。ナントは長い歴史を持つ大都市で、文化財や自然が多いところ。研究所は都心から路面電車で10分程度、現代建築家がデザインした建物です。色々な専門分野の色々な研究チームがありましたが、フランスではコーヒーブレイクが重要なので、建物の真ん中に大きなラウンジがあり、コーヒーを飲みながら他のチームと学際的な研究議論や意見交換が多く行われて面白かったです。また実験をする時、いつもエンジニアや技術スタッフがいたので、効率的に実験を進めることができました。



<Gentiane Venture (ジェンチャン ベンチャー) プロフィール>

1995年6月 フランスのパカロレア(大学入学資格)取得
 2000年6月 エコール・セントラル・ド・ナント
 (グランゼコール:フランス独自の最上高等専門教育機関) 卒業
 2000年9月 ナント大学 修士課程修了
 2003年11月 ナント大学・エコール・セントラル・ド・ナント 博士課程修了
 2004年1月 仏国原子力研究所知能システム部 研究員
 2004年11月 東京大学知能機械システム工学専攻 日本学術振興会外国人特別研究員
 2006年11月 東京大学知能機械システム工学専攻 IRT研究機構 特任助教
 2009年3月 東京農工大学機械システム工学科 准教授